

平成 30 年 6 月 2 日(土)に秋田大学医学部附属病院医学研究棟において、平成 30 年度乳房撮影技術研修会が開催されました。会員 29 名が参加して 14 時から 17 時まで濃厚なプログラムで行われました。

はじめに秋田県内初となるフィリップスの乳房撮影装置が稼働した市立横手病院から施設発表がありました。フォトンカウンティングという新しい画像技術が紹介されました。圧迫板が下りてからその上をツースが読取走査する機構を動画のスライドで示していただいて、非常にわかりやすかったです。新しい技術に対して会場から質問も多く出ていました。

続いて平鹿総合病院の武石優子先生による「乳がん看護認定看護師の役割について」のご講演がありました。私たち放射線技師よりさらに患者さんに近い立場でお仕事をされていらっしゃるの、患者さんとのやり取りの仕方や患者さんと向き合う時の心構えなど勉強になる点が多数ありました。患者さんの本心を引き出すには、困っていることはないですか？とズバリ聞くことよりも、家族のことや趣味等の病状と異なる話題をすることで引き出せることがあるとお話は看護師ならではの経験談だなと感じました。私たち放射線技師に与えられる時間は検査中の短い間なので、患者さんの心の奥の気持ちを引き出すのは難しいかもしれませんが、寄り添う気持ち、話を聞く気持ちは大切にしなければならないと思いました。

休憩をはさんで慶應義塾大学病院の根本道子先生の「乳腺画像 conference」のご講演がありました。マンモグラフィ、エコーのほかにも MRI、PET、等様々なモダリティの画像が示され、診断のみだけでなく術式にまで迫っていく講演は初めての経験でしたので、大変興味深く聞かせていただきました。1 人の患者さんを初診から治療法の選択、術式まで一連で追っていくことで、私たちが撮影するマンモグラフィの重要さが身に染みてわかりました。ポジショニングの甘さが患者さんの術式を変えてしまうんだという意識をもって今後さらに技術研鑽に励みたいと思います。

文責 高橋

